

道徳教育全体計画

北海道教育推進計画		校訓 錬心大望		関係法規 日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領	
基本目標 1 社会で活きる実践的な力の育成 2 豊かな心と健やかな体の育成 3 信頼される学校づくりの推進 4 地域全体で子どもたちを守り育てる 5 北海道らしい生涯学習社会の実現		学校教育目標 1 知性と創造力を磨き、自ら実践する人間 2 人と自然を愛する、心豊かな人間 3 心身を鍛え、未来を拓く人間			
地域の特性と願い 地域の中心的な学校であることから、本校教育への関心は高く、学校の活動には協力的である。生徒には、心身共に健康で望ましい生活習慣を身につけてほしいと願っている。また、将来の地域の人材として、社会ルールを守りながら周囲に協力的な優しい人間になってほしいと願っている。		道徳教育の重点目標 ○ 人間尊重の意識や生命への畏敬、思いやりの心など豊かな心の育成を図る。 ○ 基本的生活習慣を確立し、生徒の規範意識の高揚を図る。 ○ 社会の一員としての在り方生き方を学び、社会から望まれる生徒を育成する。 ○ 体験活動を通じて、社会観や倫理観のある生徒を育成する。		生徒の実態 基礎学力が身につけていない生徒から、大学への入学が可能な生徒まで学習能力の幅は広い。多くの生徒は家庭学習の時間が不足している。また、大きな環境の変化がなく高校入学をしている生徒が多く、社会人として必要なモラルやマナーは十分に身につけていない生徒も目立つ。	
家庭・地域社会・関係機関等との連携による教育活動 ○ 講演会・体験活動・奉仕活動を展開するにあたって、積極的に地域社会やPTAに協力を依頼する。 ○ 学校の活動内容について、広報「八穂の星」・PTAだより・学校HPで公開する				生徒指導の機能を生かした教育活動 ○ 日常的なマナー指導、挨拶指導、服装指導等を通して、基本的生活習慣を確立させる。 ○ 校外指導や様々な講演会を通して、安全教育の充実を図る。	
環境教育の推進 ○ 講演会や校外活動への参加を通して、周囲の自然環境や郷土に対する理解を深め、そこで生活していくために必要な知識・知恵を学び、また他の生物も含めた環境を保全するための工夫を図る態度を育成する。				キャリア教育の推進 ○ 個に応じた進路指導を行い、3年間継続したキャリア学習を通して、社会に貢献することの大切さや高校卒業後の人生について考えさせ、進路意識を高揚させる。 ○ 調べ学習を通して、将来の職業に関する関心を高めさせるとともに、コミュニケーション能力の大切さと有効さを学ばせる。	
「人間としての在り方生き方に関する教育」					
各教科における目標		特別活動		総合的な学習の時間	
国語 適切に表現したり的確に理解する能力を育成し、伝えあう力を高める。様々な文章を読むことで、思考力を伸ばし心情を豊かにする。 地歴 歴史や風土を学ぶことを通して、自国の文化を愛し、他国の文化を尊重する心を養う。 公民 現実社会への理解・貢献など公民的資質の基礎とそれの上に立つ正しい倫理観を育成する。価値観の多様化・合理化など現代社会の様相を客観的に判断し見直す能力を身につける。 数学 論理的思考法を学ぶことによって、様々な局面での判断力を養う。 理科 自然の事物・現象・摂理への関心を高め、自然と人間の調和と生命の尊さを考えさせる。実験を通して協働の大切さを学ばせる。 保健体育 身体活動を通してルールやマナーを守り運動する習慣を身につける。心身の健康や安全に対して配慮する意識と態度を養う。 芸術 創作・鑑賞を通して自己の感性を高め、豊かな情操を育て、精神形成に役立てる。 外国語 英語の学習を通して他国の言語や異文化への理解を深め、尊重する態度を養う。自分と他者との意見を的確に伝達できるコミュニケーション能力の育成を図る。 家庭 人の生涯と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解する。生活に必要な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る態度を養う。伝統文化や礼儀、作法に関する知識と技術を習得し、臨機応変な所作がとれる能力を身につける。 情報 メディアリテラシー教育の観点から、情報モラルへの理解を深め、正しい情報を取得するための基礎知識を高め、かつ的確に発信・操作できる能力を養う。 農業 体験学習を通して生命を尊重し育む心を養い、勤労観を育成する。 商業 実社会の仕組みに触れることで望ましい人間関係の形成や社会性、社会的モラル、ビジネスマナーなど倫理観を育成する。 産業社会と人間 自分史の作成により、自己を見つめ直し、自分の生活環境や生活態度、能力や資質について理解を深める。さらに社会との関わりの中で自分の将来を設計し、社会性・倫理観・自己を生きかすために必要な能力について考えさせ、2年次以降の総合学習の活動につなげる。 職場見学や上級学校見学、ボランティア活動を通して、身近な地域のみならず社会全体を広い視野をもって認識し、自己の在り方を探り、改善しようとする意識を高める。		1. 心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする、自主的・実践的な態度を育てる。 2. 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、他者との関わりの中で自己を生きかす能力を養う。 (1) ホームルーム活動 ①望ましい集団活動を通して、自己の役割を自覚し、責任を持って諸問題の解決にあたる態度を育てる。 そのために、学年目標、クラス目標を明確にし、各年次で計画的・発展的な指導のもと、各教科や特別活動など教育活動全体を通して行われる道徳教育の補充・進化・統合を図る。 (2) 生徒会活動・委員会活動 ①生徒会に関わる行事や活動に主体的・積極的に参加し、学校生活の充実と改善を図ろうとする態度を養う。 (3) 学校行事 ①集団生活の在り方や環境の美化、モラル・マナーについて学び、健康で安全に生きるための教育を行う。 ②教育活動の充実のため、PTAや地域社会、関係諸機関との連携を図る。 (4) 部活動 ①心身の健康増進と身体能力の向上、目標を達成するための協調性と意志の疎通を図るためのより良い人間関係の形成を目指す。		1. 1年次の「産業社会と人間」を通して発見した自己の在り方についての学習を深化させ、ライフプランを設計しながらよりよい社会性・倫理観について考えさせる。 2. 自己を生きかすために必要な能力の伸張を図るための具体的な方策について実行させ、有用性を体感させる。ディベート演習や社会認識での調査・発表などを通して、基本的なコミュニケーションから実践的な議論の手法まで学習することで、他者の様々な思考と表現能力に触れ、自己の思考力と表現能力を高めるための方策について考えさせる。また、他者を認め、より良い議論となるための人間関係の構築を目指す。 3. インターンシップなど、地域の人々と産業に関わる様々な体験活動を通しては、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に物事を判断し、適切に問題を解決する思考力や行動力を養う。 4. 3年間のキャリア学習を通して身につけた基礎的・汎用的能力を活かし、課題研究に取り組む。	